

NPOワンポイントアドバイス!!

~行事、研修のユニバーサル・デザイン6つのポイント~

講座や研修を実施する団体も多くありますが、障がい者をはじめ、どのような立場の方でも参加できるようにするために準備や運営面での配慮が必要になります。そこで、そのためのポイントをお伝えします。

●企画：主催者側の対応は本人の希望に沿って

まずは当事者本人にどのようなお手伝いが効果的かをお聞きし、それに沿って進めます。参加が予測される立場にある方をスタッフに加えたり、使用する施設とも相談し、蓄積されたノウハウを学びましょう。

●広報：事前の情報発信は丁寧に

ホームページやチラシ等で企画内容を発信する場合、「こんな配慮をしています」「希望の対応を、お問合せください」という情報を流しましょう。ユニバーサル・デザインに関してのQ&A集を設けるのも効果的です。

●会場設備：多様な参加者の視点で会場の環境を整える

施設面でのバリアフリーだけでなく、託児・授乳等のスペース、要約筆記や手話サービス、介助者等への対応、当日座る位置の希望に応じられるか、発作等緊急時に備えた対策も整えましょう。

●配布資料：色・字体・文字の大きさ・表現の工夫で分かりやすく

文章は簡潔にまとめ、高齢者や色弱者にも見やすいような書体や色使いを心がけましょう。パワーポイントの場合「黒地に白文字、書体はゴシック」を基本にすると読みやすくなります。

●進行：スタッフ・講師による柔軟な対応を

どのような立場の当事者が参加し、どのような対応を希望しているか等を直前ミーティングで関係者全員で情報共有し、スタッフの配置・対応・休憩時間の入れ方等に配慮しましょう。

●運営：参加者の協力・理解を求める

いくら入念に準備をしていても、当日は様々なトラブルが起こります。参加者の理解や協力を自然に引き出せるよう、開催時に主催者側から参加者構成や対応を説明し、予め理解と協力を求めましょう。

《参考》IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行『NPOマネジメント』



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

本号「はこまち対談」のゲスト川口加奈さんのような活動を、ソーシャルデザインと言います。ソーシャルデザインとは、「社会や地域の課題を解消すると同時に、新たな価値を生み出す画期的な仕組みをつくること。」つまり、「自分の手で、未来をもっと素敵にできる!」と信じて、実現させちゃうことです。HUBchariは正にその例です。今、様々な分野で実際に多くのソーシャルデザインが実践されています。歴史は古く、あのナイチンゲールの活動も、兵士の院内感染を劇的に減少させる仕組みをつくった初期のソーシャルデザインでした。

こう書くと、世界を変えられるのは一部の凄い人や専門家等に限られるの?と思う人も多いかもしれません。でも、ご安心ください。川口さんも、「未だにシャイで極度の人見知り」と言ってる、ごく普通の自然体の学生さんです。

どんな人でも、「社会のここを良くしたい!」というシンプルだけど強い思いと実現力のあるアイデアを持つことができれば、世界を変え何かを救うことが可能です。宣伝会議『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』の中には、「大切なのは、こうなったらしいなという“気づき”と、できるかもしれないという“勇気”」と書かれています。

新しい年が「気づき」と「勇気」にあふれ、そこから多くの「希望」が生まれていくことを期待しています。